



土淵集

子 12  
3515





行おこなひつゝ傳ら写まれち誤ちがりまのり人  
るち我が思しふはちは道の師しのし教くわいと  
交まるあ人ひと大おほ外がへはとと出いさいさいふふ書しよ  
ありあるる一ひと適あたハは編あふふよよるる傳つてと  
来こるこ見みふふ人ひと懐なみみ強かくく一ひと國くに人ひと  
口くちとと写かくくららもも徒た小こ柄がらとと今いまと



悲かなししむむ教くわいとと美う人ひと事こと深ふかく  
秘ひしし厚あつくく覆おほるるよよりり動うごももと  
偽いつはり或ある傳つてへへ実まこととと失うふふ教くわい多おほしし  
悪わるきき人ひとふふとと亦またとと我われととすすと  
善よ人ひとよよもも均なりりとと長ながししとと抱かかりり  
一ひと傳つてりりのの法はふ不ふ傳つて



二字用合入る

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬるホニラ

一かきくけこの濁音入る

ホセラ

一ちひまゝえまむのふかぬるホセラ

たちつてとらある

ちの

ホセラ

一かきくけこの濁音入る

一ちひまゝえまむのふかぬるホセラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホセラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホセラ

ちのあはれ字の事

ホセラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホセラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホセラ

ちのあはれ字の事

ホセラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホセラ

一軟濁のふ

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一ちひまゝえまむのふかぬる

ホニラ

一 勢しててふをいれりとの 卍九ヲ 一をたのふをいれり

巻之二

一 百毒丸用合の次書

巻之三

一 拍子の海根をいれり 三丁 一かひの拍子いれり

一 西ぶと拍子縦維の書 六丁 一氣の海

一 二羽二機をいれり 八丁 一調八海廿十二個子律呂丸

一 機の論 十二丁 各同く号解

一 巻丸海 十丁 一音声の海

一 巻のつうひをいれり 九丁 一時をいれり

一 声丸横登のり 八丁 一ひびきの弁

一 巻つうひの巻 七丁 一呂律のこうちいれり

一 祝言魁眩のちをいれり 六丁 一横登いれり

一 拍子河ひのり 五丁 一お切海出いれり

一 進退の五拍子いれり 四丁 一キ五拍子いれり

一 七ツ拍子のり 三丁 一キ一拍子のり

一 末の拍子いれり 二丁 一に拍子いれり

一 花拍子のり 一丁 一今合ぐりのり

一 口をいれり 〇 一心の曲いれり

一 心丸並処のり 〇 一うの位いれり

一 序破急いれり 〇 一番冠いれり

一 五段を段の勢いいれり 〇 九

一 端曲骨 〇 〇

一 丁ヲ 一ふ音丸弁

一十辨のひび

十一ツ

一上中下の差別

十ツ

一膳飲死のひび

十ツ

一カ及細及のひび

同ツ

一僧ワキのひび

十五ツ

一吟入毎

十六ツ

一ふりひひまきつらひ

十六ツ

一むくせの毎

同ツ

一まきつらひ言つらひ

十八ツ

一皮肉骨のひび

十八ツ

一皮肉の居つらひ

十九ツ

一大小小夫つらひ

十九ツ

一ふりまゆつらひ

十九ツ

一市色きつらひ

十九ツ

一心と口と切腹の不切腹

十二ツ

一鉄人の曲ひび

十六ツ

一花つらひ

十二ツ

一不れぬ平ぬのひび

十六ツ

一文字とまよふ那つらひ

十六ツ

一まよふ文字の那つらひ

同ツ

一曲のおとつらひ

十六ツ

一次曲のひび

十六ツ

一色枕の曲ひび

十七ツ

一のりぎう下里ぎうのひび

十八ツ

一句次ひび

十八ツ

一句切の息巻のひび

同ツ

一息を起す下まらふ

十二ツ

一句まきまきのひび

十二ツ

一魚つらひ

十二ツ

二廻独ひのひび

十二ツ

一シラワキ日暮たふおと

十六ツ

一陰入り湯のちひび

十七ツ

一下の中れひのひび

十七ツ

一中書とくと二書と

同ツ

一持と川との差別

日

一くらと志保との差別

同ツ

二字づらひ

十九ツ

一くらりのひび

十九ツ

三字づらひ

二十ツ

一くらりのひび

二十ツ

一入りのもの

四ナラ

二字まじりぬ

四ナ

一ひらひらのもの

四ナ

三字まじりのもの

四ナ

一志まじりてト書しぬ

四ナ

一志まじりてト書しぬ

志まじり

一花まじりのもの

二ナラ

二字清二字清のもの

二ナ

一のりまじりのもの

二ナラ

一字す節のもの

二ナ

一まじりまじりのもの

六ナ

一のまじりぬ

六ナ

一まじりまじりぬ

六ナ

一字まじりのもの

六ナ

一まじりまじりのもの

六ナ

一字まじりぬ

六ナ

一まじりまじりのもの

六ナ

一字まじりぬ

六ナ

一三つまじりぬ

八ナ

三つ川のもの

八ナ

一序は二字のもの

九ナ

一文字まじりのもの

九ナ

一ひらひらりのもの

四ナ

一拾ひまじりて拾ひぬ

四ナ

一まじりまじりのもの

四ナ

一まじりまじりのもの

四ナ

一文をまじりのもの

四ナ

一文をまじりぬ

四ナ

一まじりまじりのもの

四ナ

一まじりまじりのもの

四ナ

一まじりまじりのもの

四ナ

一曲とまじりて拍子とまじりぬ

四ナ

一まじりまじりのもの

四ナ

一曲とまじりて拍子とまじりぬ

四ナ

一まじりまじりのもの

四ナ

一網子辰巳のりぬ

四ナ

一イロのもの

四ナ

一イロのもの

四ナ

一色のもの

四ナ

一セイあくものもの

四ナ



一 乃ののり	十五	一 フキ名案せりふとてサシのり	十五
一 三ノセイ出ハのり	十六	一 下分の不系なるり	十七
一 サシの末お切よかき果のり	十七	一 小端の序ハニ字のり	十七
一 フレは直ものり	十八	一 呼りけとて出るり	十九
一 同着のり	十九	一 初夜の同書ハカ	十九
一 飛取のり	二十	一 込分経文後おろしお流末のり	二十
一 文のりをてぬしち入る	二十	一 のりとのり	二十
一 のりハカ	二十	一 くりお方の同書乃カ	二十
一 市一のり	二十五	一 サシとて下分なるり	二十五
一 くらまのり	二十六	一 海後のり	二十八
一 中入のり	二十九	一 粘りたるのり	二十九

一 後の出ハカ	ホ	一 後の出ハ粘とてお上の粘ハカ	ホ
一 拍子どくづま	ホ	一 巻のりハツシの粘りたる	ホ
一 おろしきのり	ホ	一 ぐらせと名のり	ホ
一 市上ハゆりのり	日	一 下分おろなるり	ホ
一 拍子ハなるのり	ホ	一 キリのり	日
一 おろしきのり	ホ	一 巻古のり	ホ

右月録の条ハ大板と書あり久久微細ニあるまハ筆成  
 じらふりてあり



付て家柄なまは先を極せんは極め用合れ  
ゆりくに書便乃う<sup>原</sup>ゆりかんとよきはあうく  
或は云葉かどきもつて<sup>サハ</sup>内は碍りゆりひい文字く  
たりあつて<sup>サハ</sup>内をまうくは是ゆりななり  
自己天成れ言音故失へあはあすや極き<sup>サハ</sup>望ど  
又すてに<sup>サハ</sup>書曲となりて視ひ物とまう上ハ兼く  
平日言語れ扱ひ乃とふてと聲<sup>サハ</sup>れ文をなすよ  
き叶ふ家所とゆりあふ<sup>サハ</sup>なれたハあにまへ  
故に今思ひ<sup>サハ</sup>るる一<sup>サハ</sup>趣をゆりく筆一<sup>サハ</sup>留む

逐一<sup>サハ</sup>記きは<sup>サハ</sup>枚く<sup>サハ</sup>挙へ<sup>サハ</sup>る<sup>サハ</sup>。道大要一<sup>サハ</sup>二<sup>サハ</sup>  
此例をゆり<sup>サハ</sup>く<sup>サハ</sup>准<sup>サハ</sup>據<sup>サハ</sup>に<sup>サハ</sup>備<sup>サハ</sup>あ<sup>サハ</sup>る<sup>サハ</sup>とあり。とかく  
文乃乃うゆり<sup>サハ</sup>和<sup>サハ</sup>る<sup>サハ</sup>言<sup>サハ</sup>舌<sup>サハ</sup>れ<sup>サハ</sup>扱<sup>サハ</sup>ひ<sup>サハ</sup>鄙<sup>サハ</sup>野<sup>サハ</sup>あ<sup>サハ</sup>ぬ  
やうかと考へ<sup>サハ</sup>心<sup>サハ</sup>を<sup>サハ</sup>用<sup>サハ</sup>ひ<sup>サハ</sup>て<sup>サハ</sup>天<sup>サハ</sup>然<sup>サハ</sup>乃<sup>サハ</sup>完<sup>サハ</sup>合<sup>サハ</sup>音<sup>サハ</sup>便<sup>サハ</sup>を  
自得す<sup>サハ</sup>執<sup>サハ</sup>事<sup>サハ</sup>ゆ<sup>サハ</sup>り<sup>サハ</sup>。

哥連歌は不音連聲あり日のなり人  
あまを<sup>サハ</sup>知<sup>サハ</sup>す<sup>サハ</sup>と<sup>サハ</sup>有<sup>サハ</sup>る<sup>サハ</sup>と<sup>サハ</sup>ん

五音五位横豎直音拗音次第

一位	二位	三位	四位	五位
上音	中	中上	下中	下
宮 <b>あ</b>	宮 <b>い</b>	宮 <b>う</b>	宮 <b>え</b>	宮 <b>を</b>
角 <b>か</b>	角 <b>き</b>	角 <b>く</b>	角 <b>け</b>	角 <b>こ</b>
商 <b>さ</b>	商 <b>し</b>	商 <b>す</b>	商 <b>せ</b>	商 <b>そ</b>
徵 <b>た</b>	徵 <b>ち</b>	徵 <b>つ</b>	徵 <b>て</b>	徵 <b>と</b>
羽 <b>は</b>	羽 <b>ひ</b>	羽 <b>ふ</b>	羽 <b>へ</b>	羽 <b>ほ</b>
羽 <b>ま</b>	羽 <b>み</b>	羽 <b>む</b>	羽 <b>め</b>	羽 <b>も</b>
喉内	喉内	喉外	舌本	舌中
兼牙	兼牙	兼齒	兼齒	兼鼻
濁	濁	濁	濁	濁
清	清	濁	濁	濁
重	重	重	重	重
清	清	濁	濁	濁

宮 <b>や</b>	宮 <b>い</b>	宮 <b>い</b>	宮 <b>い</b>	宮 <b>い</b>
徵 <b>ら</b>	徵 <b>り</b>	徵 <b>り</b>	徵 <b>り</b>	徵 <b>り</b>
宮 <b>わ</b>	宮 <b>わ</b>	宮 <b>わ</b>	宮 <b>わ</b>	宮 <b>わ</b>
宮 <b>わ</b>	宮 <b>わ</b>	宮 <b>わ</b>	宮 <b>わ</b>	宮 <b>わ</b>
喉内	喉内	喉外	舌本	舌中
兼牙	兼牙	兼齒	兼齒	兼鼻
濁	濁	濁	濁	濁
清	清	濁	濁	濁
重	重	重	重	重
清	清	濁	濁	濁

**あ**の類を直音とす  
**い**の類を拗音とす  
**う**の類を直音とす  
**え**の類を拗音とす  
**を**の類を直音とす  
**い**の類を拗音とす

さーすせろ 齒声ト定ル聲ノ取發ハさたらを同ク

名内ナレト成直子ハ齒ニ當ル故也

あわや宮さこそ高なれハ角よたからハ徴よてはまハ羽そー

あ上音ハハ中なりやウ中上ハ下の中よをこそ下音よ

以上中下ハあかたかいかしちニラる声ヨ習ふとは自と又通子カ

はまの水たからの火よそかハ木けろさこそ合よてあわや土あま

是ハ又性よて音曲ハ入ぬりなれとも類ニあれて祀之

あハ諸字ハ根ナカキハ五音平字門横堅に若あの響をま

自然の理也さて拗音ハ第二位を母りてヤハゆえよ

第三を母りてわわうゑを能生所生和合する事

え本自ガ持るる字折れ音ハ直音也是又第二第三を母と

して能生所生和合して生する所の音ハ拗音也是第二

第三を母とするハ五十字門の中ハ第二位の字第三

字也其故ハ能生れ母ハ第二第三ハ字所生の子ハ第一第

四第五の字也但第二第三とよハ能生所生とあり也先

あハ諸字の能生なれあをりハウを生一ハよを

を生一ウよりををををあり又ハ又字あいうを能

生りて五十字門を生する也其故ハ

かきたるはまやらりハあより生する故よあれと唱ふ

第二 内名始終より亦 **あ** の響き有り

きしらにひみいり **あ** **い** うり生ず故より始終より

**い** のひきき有り

第三 くすつぬふむゆるう **う** より生ず故より始終より

**う** のひきき有り

第四 けてねへめえれ **え** **え** り生ず故より始終より

**え** のひきき有り

第五 ころこのかもよろ **お** **お** り生ず故より始終より

**お** のひきき有り

あは実初れ **あ** の字を根がうて **あ** **い** **う** **え** の三  
字諸字れ能生の母とぬなり故より音末に若その  
韻き有なり

あわやの三字は同韻れ中より別を依故より **い** **井** **工** **エ**

**ヲ** の音を考もなり也

又曰やわの二字は **い** **う** れ二字より生ずる也其ゆへ

やと唱ふきは先きて **い** **え** 生れ其後口を閉けは

その **い** **う** **や** を成するなり

又 **わ** と唱ふきは先きて **う** **を** 生れ其後口を閉け

えわを成とらなり是よめてやとわとハ唱あ  
実初よコエうの音微細なる故に別してやハの  
の取生わハう乃所生ハ字とハ也

此ハやを能生とていゆえよの四字を生さし又  
ハわを能生とてわうとた乃四字を生さし也

如是横豎の能生所生を約定めて字母よ  
まをカウ校すれも拗音ハ生所分明なり

あウイ いウイ うウイ えウイ をウイ

かキヤ さスレ たツナ かヌニ はフヒ まムニ やユイ うルリ わウ井

きキイ くキユ けキエ こキヨ

各配るカけケの内にカキケは第一の  
カの字に第二を母とする付彼母ハ音ハカ也  
是よ又ハ所生のヤを呼加ハ是ハキヤと成  
なり同くカは第三を母とする付母の音ハク  
也是よ又ウ所生のワを呼加ハ是ハクワと成  
あり余前ノ如圖五十字門何哉第二第三を  
母とヤいゆえよワわうとた是と同行の  
子とす也

右の如く横唇は能生所生を配合すれば二門の拗  
 音はつれ一字は各三門の音出せる所亦有情  
 用口發声よとのはつれ此音生す孰なり上の佛神  
 歟よつらまては音声を出ス又有情のこよつれは乃本  
 又觸水乃石よつれたつれは情の声迄も是なり  
 又曰第二第三を同行れ母とする第二喉第二い古  
第三う唇也三ハ生をハ生す故は能生よ物して  
第四を唇也各第四第五の字を所生と  
 成り又能生も成なりむくのこつれよに能生所  
 生とてを盡し相通する事也

一喉舌唇の三内れ事

あいかを  
 かきくけこ  
 やいゆえよ  
 さしすせろ  
 たちつてと  
 なにぬねの  
 らりるれろ  
 はひふへか  
 まみむめも  
 わ

喉内

舌内

唇内

二ハ字も舌内也





輕重清濁依上字 平上去入依下字とよハたとえ

○未ノ字 亡貴切 ハツキ びト反ル  
○訃ノ字 呼田切 コト けト反ル

いしきち 此合也 には 上ニ呼字亡ト濁ト故 びふへ ハトニヨル下ニ呼字 みるいり

此合也 上ニ呼字亡ト濁ト故  
ハトニヨル下ニ呼字  
貴ト一字カニ反ル  
ビト一字カニ反ル

え 此合也 け 上ニ唱フ字呼ト せ ス故 て 下ニ唱フ字田ト へ ハトニ故 め ハトニ合セ え テ れ けんト反ル

え 此合也 け 上ニ唱フ字呼ト せ ス故 て 下ニ唱フ字田ト へ ハトニ故 め ハトニ合セ え テ れ けんト反ル

横歸本 ハトス とよハたとえ

○各ノ字 柯洛切 カラク かト反ル

前ニ呼字柯

横ハ本ニ歸スト前ニ呼字ノ  
カニモドリテ  
又依ト字ノ洛ノクヲ添テ  
かくト反ル也

あかさたはまやわ

後ニ呼字洛也 ラ

右ハ列韻ノ字同合ノ分分明チザル時 玉篇反切以爲可知之記

堅留末 ハトス とよハたとえ

○福ノ字 方伏切 ハツフク ぶト反ル

前ニ呼字方 ハツ は フ びふへ 後ニ呼字伏也

堅留末ト後ニ呼字、ぶト反ル

○交ノ字 古交切 コカウ かト反ル

後ニ呼字交也故 カウ かくト反ル

前ニ呼字古 コ かきくけこ



はたらくひヤロ まどか故も同く也 又引音も准する類

ハシメ ハシメ ヤシメ サシメ アシメ イシメ ウシメ エシメ オシメ

母上 ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

ハ類 ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

△いきしちにひみいりか ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

母皆うト刻て唱小 ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

△うくすつぬおむゆるう ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

唱小 ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

△えけせておめえれえ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

「エウ」 「キョウ」 「セウ」 「テウ」 「キョウ」 「キョウ」 「キョウ」 「キョウ」 「キョウ」 「キョウ」

此延かあ用日前ニテ皆合音也 全く刻字ニ非ス物々ニ 蝶 急てう 花 急てう 又流ニ安てう 急 急 急 急 急 急 急 急

△このころのかもよろか ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

唱小 ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

△このころのかもよろか ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

一 文よりつりれ度 ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ ハハシ

此を教の母字を延、生字を捨て次の字へててその母  
 べーこそ也故又短く成て二可乃かか一字を移乃  
 之乃あつてハなり、畢竟母字を多く留め有よし生  
 ぬ字短くし、或は母字有へし、或は生るゝ字下より  
 く出て能ふも有又上下の章れらむし、そつり  
 やうもちよへし、又後そハ所よりてう、是は借  
 白のあふとさ  
 △見せたとと思し、△素とやと思し

△あがきたちはまやらわ 此候名ハあのひびきより あ、移れ

三 其がうらひさの

子 今ハあのさう

井 ぬすう、あまみ

江 移女乃うか何そん

△いきしちにひみいりぬ 此候名ハこのひびきより い、移れ

松 沖はちのさた、さり

揚 いそた、いし

子 かのう、ふら、い、な

色 移も何り、い、ち、わ、い、の

桜 忍意、いし

冥 移々、い、い、し、ハ

△うくすつぬふむゆちう 此候名ハう、ぬ、音より う、移れ

白 花はな、く、う、く、し、を

桜 今わく、う、さ、め

胡 時人を待、ぬ、う、き、を

糸 後、あ、ら、う、あ、め、や

△急けておへめえれ急 此候名ハ急のひびきより 急、移れ

倭 清似世、後、を

松 清たて、え、は、い

う 洞も、あ、め、え、ぬ

り 帯、め、本、う、け、え、い



恩愛 エニ アイ

噴嚏 フン テニ

寒雲 カン スン

輪廻 リン シ

觀音 カン オン

わが  
かたに  
ぬらぬ  
をの  
鳴

はもわと後所テハなと唱

淳和 ジュン ナ

閑羽 カン エ

尊詠 ソン エイ

感應 カン オン

金盃銀盃 キン スイ ぎん スイ

やい  
ゆ  
え  
よ

深夜 シニ ヤ

散位 サン イ

人油 ニン ユ

変妖 ヘン エウ

神輿 シン ユ

泉涌寺 セン ユウ ジ

萬葉 マン エフ

はひふへか

三并 サン び

玄賓 ケン ビン

寒風 カン フウ

源平 ゲン へい

遠浦 エン ホ

は湯よ湯よ唇を急よ合せてえつむ

右同

魂魄 コシヨク 先非 セニヒ 絹布 ケシヨフ 君边 クニヘ 尖峯 セニホク

但音曲流くより音偏に過るざる不也此類なり

わろのあゝん ワロ びんびけ ビンビケ 令心不乱 コノココロニシズカズ 一合發起 イツカフキ

○さーすせろ

はるか法偏も舌をひくてもぬへー  
 休くたぬれえ下れ齒音重くぬ也

満参 ミサン 親子 シニシ 澗水 カニスイ 安全 アニセニ 親疎 シニソツ  
 身三 シニサニ 錦繡 キシシウ 年數 チニスウ 耳泉 カニセン 玄宗 ゲンソウ

○ざーずせろ

右清音ノ所ニ記ス如舌先ノハクキニ  
 ありぬやうに唱へへー

金山 キンザン 変成 ヘンジヤウ 神水 ジンスイ 神前 シニゼン 先祖 セニゾ  
 源三位 ゲンザン 源氏 ゲンジ 三寸 サンズン 現世 ゲンゼ 眷属 ケンゾク

げんどの唱へる字は舌をひくさせんともあは傍より文字  
 と付るを直よげんどとよむことイヤ又眷属ヲムるん  
 ぞくと書目モケラ柳音とてクエと唱ふ時ハチハ字ヲとの  
 つくしむる故ぞクあへ舌あらず又曰築地也傍ニ  
 ニ字ヲ付らハハノクカヨリヂノ字より進むトノカニ安  
 き故舌を虧へるはよぢのくかよるやカヤうよをぬる心よ  
 唱へべきとのやハぬと重につらぢトヨムイカ、され  
 皆音便を不得心故先



○た ち つ て と この字を添くをぬれん音便叶

耶 耶 カニ 船 中 セニ 金 鎚 キニ 心 底 セニ 仙 德 セニ

進 退 シニ 天 地 テニ 感 通 カニ 先 帝 セニ 玄 冬 ケニ

○た ぢ づ で ぢ この字を添くをぬれん音便叶

梅 檀 セニ 天 竺 テニ 神 通 シニ 南 殿 ナニ 槃 特 ハン

禁 断 キン 班 姑 ハン 三 途 サン 怨 敵 オン 震 動 シニ

○ら り る れ ろ この字を添くをぬれん音便叶

安 樂 アン 禁 裡 キン 感 淚 カン 哀 龍 アイ 參 籠 サン  
散 乱 サン 千 林 セン 速 流 ソク 秦 嶺 シン 嶮 路 ケン

一 律 の 字 よ り う つ り や う れ 文 凡てつめ字をキツトつむれんをのつと音便叶

○あ い う ゑ を 千五  
た ち つ て と 唱 千五

月 庵 ケツ 佛 意 フツ 悉 有 シツ 法 縁 ホツ 佛 恩 フツ  
叱 咤 シツ 厥 陰 ケツ 過 雲 カツ 支 袂 シツ 八 億 ハツ



○かきくけこへ移ぬハツメテうつる。

悉皆 シウカイ 悦喜 エウキ 拔群 ハククン 撲家 ボクケ 羯鼓 カウコ

發向 ハツキウ 一休 イツキウ 八苦 ハクク 吉凶 キツケウ 葛根 カウコン

○さーすせろ 右同

佛參 フツサン 一子 イツシ 拂子 ホツス 出世 シウセ 一足 イツソク

鉄札 テツサツ 合掌 ガウシャウ 一睡 イツスイ 雪山 セツセン 早速 サツソク

○たろつてと 右同

接待 セツタイ 甲冑 カウキウ 密通 ミツツウ 雜躰 ザツテイ 出頭 シュツトウ

薩埵 サツタ 雪中 セウチュウ 鉄鎚 テツツイ 越鳥 エウチウ 必得 ヒツトク

○かきくげこ濁へ移ぬハ上のツメ字を吞ム

渴仰 カウダウ 別行 ベツギョウ 發願 ハツガン 雪月 セツゲツ 密言 ミツゴン

乞巧 キウカウ 厥疑 ケツギ 逸群 イツクン 達藝 タクゲイ 實語 ジツゴ

○さーすせろ 濁 右同ノム

佛像 ブツゾウ 密事 ミツジ 骨髓 コウズイ 忽然 コウゼン 血族 チウゾク

末座 ヘウザ  
鐵城 テウジヤウ  
吉瑞 キツズイ  
佛前 フツゼン  
脱粟 タツゾク

○たぢづでど濁  
右同ノム

悉達 シツダツ  
出陳 シュチン  
筆圖 ヒツツ  
別殿 ヘツテン  
越度 シュツド  
末代 モウダイ  
変定 ヘンテイ  
列厨子 リウシュ  
密傳 ミツデン  
熱毒 ネツドク

○ちぬぬの  
右同ノム

刹那 セツナ  
出入 シュツリョウ  
發怒 ハツヌ  
越年 シュツネン  
實能 ジツノウ  
八難 ハツナン  
骨肉 コウニク  
黠奴 カウヌ  
失念 シツネン  
薛能 セツノウ

○はびふへか濁  
右同ノム

血判 ケツバン  
佛平等 フツビョウトウ  
阙文 ケツブン  
執鞭 シツベン  
伐木 ハツカク  
佛罰 フツバツ  
熱病 ネツビョウ  
第介 ダイケ  
結襪生 ケツバクセイ  
發菩提 ハツホツメイ

○まみむじめも  
右同ノム

末々 モウマウ  
佛名 フツメイ  
別夢 ヘツム  
發明 ハツメイ  
悅目 エツモク  
別幕 ヘツマク  
逸民 イツミン  
即滅無量 ジュツメツムリヤウ  
必滅 ヒツメツ  
見佛聞法 ケンブツモンホフ

一ツ字を吞てあいうえをへ後ゆハますの心なり

あいうえを

ろにろろろろ

實惡 生滅色 滋雲 夜室 念公

一入声のクの音より

かきんけこの後字へうつるハク音を行めて後向  
帰る字へうつるハク音少ノム心也

欲界 讀經 惡口 北溪 六根

竹竿 惡鬼 白駒 肉桂 白黒

同濁字へうつる

落雁 木魚 國郡 六藝 覺悟

國号 六義 六具 剋限 惡業

同はひふへかへうつるハ清濁ももろべク音より移る

若輩 閣筆 白布 國兵 白峯

北印 憶病 作文 各別 國母

北方 六臂 獨走 百遍 獨歩

一歌書并吳音ハツの音ヲちト唱小定格也

一吉質 秩イチキチ 日華ニチ 律リキ 越ケテ 阙ケテ 結セキ 切セキ 節セキ

熱別帥 裼カチ 達タチ 八ハチ 鉢ハチ 埒ラチ 七シチ

或一て四の音れ字ハ一字も二字も七はめて吸  
或ハのそてうり又ハちト吸ハるゝ直るは吸む

音ミより訓の文字へ移ぬ也

換スれ殺スをつら 定月神ニ 一鉢ハチを

日月ツクを 爲ムる 必滅ムれ 越ムの阜

颯ム々の 江月ム照

一かカきキくクげゲこコ さサゞヅぜゼろロ  
たタぢチづヅでデこコ はハびビぶブがガ

右何レモ濁者ト成付ハ鼻を兼ル取分がきくげこ濁者  
ハ鼻を主ぬゆハ濁者へ移ぬハ鼻へ吞ミ流者へうつぬを  
ツメテ移ぬなり

まマみミむムめメもモ まマみミむムめメもモ  
らラりリるルれレろロ はハびビぶブがガ 世濁者  
だダぢチづヅでデこコ はハ濁者トをヌス 五濁者

太タをヲらラまマのノ三行ヲ鼻へ吞モ濁者同前故なり

一とトのノ字より移るるハ平濁新濁も吞者なりハ平濁也

一割のつ文字ハも直ノ唱又ツムルハ有吾て後ハた

ましくも也

○まの 義經 後寺 勝家 何

朽 初音 三四 日嗣 落

○謹 割 対立 流つま 能引

祈 赤て 成つて ちやうのたむハツムル

○山 初月 千満殿 木津川 ちやうれつらも

は方ハ判りもも吞て強フ

○流つも 此ツラ吞て強味モ有 志江谷 上

一ぢぢ づぢ

ハ濁音を引候名をよ

ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ

ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ

ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ

ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ

ちぢづノ濁音モ。らフトスミテちぢぢノ如く腮へ舌ヲ

但此ぢづノ濁音舌を腮へ強く触るは舌と耳とを交  
小ハ大トワカマツル所也舌根ハ  
尖ノちぢぢノ有ハ一是音便也又流音ノ  
よりにハ此ノ仮名一向余後ちぢぢも有物也軍陳

先凍等をしし湯煮に湯ぐ末練よゆへー是て  
とありしころゆゆ是又おひあり

ぢう從 ぢん仁 ぢう上 ぢう尉 ぢよ叙

ぢう住 ぢん座 ぢう定 ぢう牒 ぢよ女

ぢゆ佛 ぢや邪 ぢやく若 ぢよく辱 ぢめん潤

ぢゆ饅頭 ぢや藪茶 ぢやく執著 ぢよく濁 ぢめん純

一ぢづづ

はたらく川ゆ名の方ち能く考よへー  
此二河いの仮名よりうづづづの付ハ文字をおく  
唱よへー

ツイヂ  
築地

ナイヂ  
内陣

ハイヂ  
平治

イヒツチ  
相槌

ナイツ  
系圖

カイツ  
海津

一ウ喉ニ舌ム唇の二河此事を喉舌唇の分ち有

とつとも三字も要なり顔字よりして唱よ

をきこを並子ヨラに唱よハ末練の事りあり

ぢ嬌 ぢ奪 ぢ宜 ぢ馬

ぢ梅 ぢ埋 ぢ生

生 ぢ直唱 埋 ぢ直唱

二字用合の真いろは後乃やうよ後よゆへー



一字假名に長く成安きあり舌よまろぬるはは後段を  
 初ハ初中又長くなりてのひ色又短くも一と云う  
 をまろひは假名にひの定規を初ぬ故ありそれ  
 以上上の假名にひきよつきて次の假名或は鼻へぬけ  
 或はちひき假名大ききあり堅き如かのほく不是ハ  
 舌定ぬり多しハ文字障を初一皆口内ハ定規な  
 き故其趣りよぬち初進も又假名扱ひのこよき  
 心を付て口中をまろぬるよすれをきもも来て強の  
 かと失ふあり年竟常々文字ハ同舌古ありひに

工事を弄ひさ教討ハ意に初ぬるして出初ぬ初あり各  
 あろひ初るうとをり心付てハ又行たぬ不もあり又  
 全きを考りて口内初るハ泳音曲ハ初やと考ふ  
 たり初角意く能生所生ハ響初うつりを熟得  
 能馬よほひまえて耳又たぬやうは初小是すか初  
 音便の初初ち架  
 一あかさたかはまやらわ

是ハ陽声よ同音如故ハ口中開き息と音声  
 出さて文字うきとり初ハ長く初或は大きき初

安く傍く内よたるむ字なり唯内をなめれず少  
きむの心をて吉古内を常の事な音便の音

きて悉一

○何くまをたらふ雷ふれみあうふやまけら

もろハヤ

おろしよはまゆるし悉

○色  
あれぬるあまれくもの事

口を同をある故かモ何モス  
し一悉

第三位

一きーちにひみいりか

此字能生の文字故種き字也必種をて音の上をなれ  
な一々実を入心有下 是ハ実も使く考入下

第三位

一うくすつぬふむゆらう

此字も能生の文字故種一但第三位といふ少なり有

唇に公を付すがむ一

第四位

一悉けせてぬへめえれ悉

此字ハ能生の後居也舌の上付て平く必平くぬ悉き  
字ありそれ故強くあらうしてハ甚いや一くやの和

くに物く舌扱ひす一

○ふても悉まや志げむれ共いしハ雲らう入

うけてとあしぬあろゆく悉





一さーすせろくノ仮名を唇と舌先を板齒イハカへよせらるゝ  
〜びーらして留りつハ未練マゼン也

一がぎくげー

此濁音ハ鼻へ入仮名之ハ濁音と云ひまハがハ鼻へひ  
ろをひえあゝぬすことねを鼻よたつたつろやうよ留  
てハ文字平くぬきやーくやも鼻へ入字と下れ假  
名へ留りぬやうよ用をすー

○まがれり

らさぢよき

えごき

あづまよー かにらハ甲

一かにぬぬの 鼻へひぐく仮名也是も上と下れかかめ

つねぬやうよ用をすー

○せ。○なれう。○み。○や。○れ。○林。○あり。○の。○ち。○ひ。○あ。○ん

○芭。○んぬ。○いろ。○れ。○う。○き。○や。○ろ。○の。○も。○か。○ら。○ろ

一をびふべが

ハ濁音をとりて並にまむむあもあす  
いゝ強く留てハむおー和に濁りし

○形。○さ。○む。○り

わろくに濁りへー

○世。○さ。○び。○き

死イトのろよ濁りへー

○仙。○悉。○皆。○成。○ふ。○ん。○と

わろくにふりわろくにツムへー

○後 神よ安んずをえうぶなり

わうたに引へー

○杜 かべてのえもの

べトのあまごひへー

○老 晨澄せきかえん

がトのあまごひへー ちんごんごん

一 あかたかにはまやらわ より移るわの字 **あ**は紛る也

○つれ かいち さりり さるひ なハ 繩

えき木 たまりる やらう あらう

但らうは後の如く **わ**と意ないんすとすれは口内移して

史かろー又わしるまきは **あ**は紛るごとく **あ**は紛る也

ぬらうまごひへー

一 うくすつぬふむゆるう より移る **わ**の字 **あ**は紛る也

是ハ性 **わ**と中よりわうよりへー

○ゆハ すハ 二ハ 痛む 々ハ 泣くぬる

作ハ 心ハ 中よりハ あるハ

一 うくすつぬふむゆるう より移る **あ**ハ字 **あ**ハ 下のるよ

唱へへー

草庵 サウア 釈阿 シヤア 素足 スア 初鮎 ハツア 皮膚合 ヒフア

草鞋 サウアイ 曳網 ヒクア 酢敢 スア 三足 ミツア 不合口 フアヒクチ



一 忍けてねへめえれ忍 より移る **い**の仮名 **忍**も紛る

ぬまうの留め

青山 セエ

吟人 レエ

平地 ヘエ

詠 エエ

○え来 **い**より出る **忍**也忍けてねへめえれ忍 **忍**の  
ひきまの依え忍 **紛**る也年竟 **い**の仮名よりき故  
なり美を合てり也

一 **まう**のかか ウカトワヤウの留め

育王山 イマサ

祇王 キマ

四王天 シマテン

鬼王 クニカマ

横道 ヨコミチ

有王 アリマ

王伯王母 オウハクオボ

青黄 シヤウ

横障 ヨコサマ

あふ 用

かう 空

まう ウカ

如北三河氏分

**わ**ハ **う**より生する音も **わ**と **えん**とすれん **え** **う**の

ひきまのつと **内**も生する也 **紛**ま **う**の字と **忍**と

加ゆりま **あ** **祇**と **わ**を分明 **あ** **留**んと **ま**は **自然**と

**う**の **忍**き **中** **あり**也 **わ**も **公** **あ** **て** **移** **入** **云** **王** **祇** **王**

よ **如** **たり** **され** **も** **是** **と** **同** **合** **へ** **く** **分明** **よ** **ま** **は**

軟濁 チダク

三重濁 チウソウダク

は **ひ** **ふ** **へ** **ふ** **唇** **丹** **也**

玉一

三十一



フハ能生の仮名也フを母字ハとて一音ハと唱ふ  
更なり但字毎よりある反例のめりあへきおとる

一 本濁新濁中濁の更

本濁ハ先とてよ

五行 キョウ

同道 ドウ

一本 ヒト

元来ノ濁音也中濁ト云

禁製 キン

心中 シン

王子 ワウ

是ハ用合よなそのこりぬるなり中濁新濁の名を依託ス  
是ハ元来ノ濁音ト云ふよりの  
是依て濁ク中濁ト云

一 越して所此新よる小の仮名亦分実を合てりあへ

○初 日夜新よるよるに

他水よりつる

田 今ハ安安又金規

五 是ハ濁世のめんく

江 六塵のけうよまよひ

揚 かれくよ私語の

だちつてこのの仮名へ後家前の小乃字吉に付てよ

よれやうにゆるぬやうよ唱よる

○れ 名よだちをねの

え 一あち種うて

それよつけても

け出よく

なよるこ

一 ての仮名へ後家前のちつ 吉よ付てツムにやうにゆるぬ

やうよりあへ

○ およひたちてん

え こよりてや

一訓の内にぬぬのへうはる新につ乃は名吞やうよ  
やまぬやうにりよる一

姑いほあれ

此乃谷よ

福乃まづひ

ねよ

一さのはと給ぬやうはまま

○さて

らまは

一候さらよ

所に多きまま故留入やう換れを甚耳よ立也  
頭をと実ゆへまま一又初の所もさらよ

と下れ長あつし直

一しの候名ゆうと中のあらう 勿輪ゆ小モいうト留小留

形○あらうはらいはらい 宋清ゆのあまい

一初の不まて一の候名若よ計し消ぬやうはらよ一

悠○悠村ぬらいて 女位持ひま。一亦

一しの候名ひと中のあらうはらいはらい

源○源也智象明 卷七社の

一ひの候名しと中のあらうはらいはらい

○人 ひらち むらり

スー ひちアア

かやうふハ夫と軟濁ヲ習入テ吉

一 〔る〕のかかろとゆめえぬやうよひくまや

○ りさる。 事家。今多き ちか。もがれ

何。ひハ 務。まうけ

一 ぬの仮名をひの字よゆめえぬやうよひくまや

○ 知。ぬ おもぬ 事ぬ夜

一 ぬのかか乃の字よゆめえぬやうよひくまや

○ えぬいろれ 事なぬさ 細ぬ乃

一 むの仮名もとゆめえぬやうよひくまや

○ たむし 事あしり

一 くの字かとゆめえぬやうよひくまや

○ くまう 事まへ 事まへ 事まへ 事まへ 事まへ

くまハ〔わ〕の上よくを付二つを合せて一音と列先  
連て拗音の字はありくハ〔く〕ノ音便を考ふハ

一 ちの字しとゆめえぬやうよひくまや

○ ちゆん 事あへ 事あへ 事あへ

是も志ゆと一の音便を考ふハ一

一 ちの字はめ字

一流は短くツムルもろく又短くさ家ハ必延るる之能程  
ハ有へー但母字を好く唱へてハのいす家なり  
延るやうまで末までかまづめよすー筆ハ記すー

三ケツ 月芝比みーいそ

けエウ

江 宿客もら門と

さアて

幸 月日男につる門事

もアて

依 建陽成佛と

志イ ふツと

アサツ 難神ひとよ

さアてい

日 越てう 南校

忽エてう

朝 月下入門

けエウ

如地をて  
やみうー

一古き書ニ **こたり** の三字きめてりよへーと有

是ハあかりちきやうまはわ **こた** の字 あうさたを  
もまやらわ  
の所は記す如ー **こ** の仮名わうくに唱へてハ浮上る  
て忽ー唇めて少美を入てりよへー

○芭 錦帳のゆは

はと、字浮在章下よりぬ

日 花はくれかわと 知りて

日 そよわぬ煉と 志す也

此の字気かたれと志すが  
ト奴フ

日 秋とてもあとり

日 虫 虫のたはしひゆすも

日 たれーあき物と祝と子れ

極 楊柳をうごくと。うらうれ

同 四りとの木立

江 すかち善賢がまると。歌ま

夫 佳生をうへと。おり

同 人やるうんと。よみしと

一 **き** の仮名もほかなり古内とて実を入てりあへ

○ **新** 王城のきとらんを

と とうりあくき。あ

あ 天主記別をかうゆり

は記のまうまていむのま  
いかに

世 あまきの花みか

後 あまのいなまき

三 ちんやろわのちまき。

安 おとろへま。人もあへ

一 古書よ **びめぶ** の三字 **べら** の二字はうはくく

ひよへとま。 但是は長くぬやうにいあへ

。びぶづの三字ははひあへかノ濁るのふよ記ス

。らん字ハ あかきたち はまやらわの内をねま長かぬやうよあて

唱のへー 飛きの却てはやうよあへ

○めノ字ハ ゑけてお の字あれん前よ記如く初に拍みし

一 たちつてと 古音也故ニ通スル也

○安伽羅龍王 「まやかつら」に唱よ  
「まやくつた」に唱よ

○雲林院 ウシリン井ニ うまめん 氏 又雲林院村ハうぢわむらト云

○善塗 安宅 「せんご」に  
「せんろ」に

一 三ノ字のり

○雲林院 ウシリン井ニ 車泉殿 カセシテン 乃延山 ニニエニサン

三ノ字もよ將きを促移而仮名依て  
上のをマウ移るへ

○那那の

一 三ノ字のり

○榎干 エノカ 人間 ニケニ 人備 ニリニ

一 二ノ字のり 一ノハ短ク下

○生者必滅 ヒウメツ 日月 ニツケツ

一 引字のり

○潇湘の夜の雨 ヒウシヤツ 上ヲ短ク下ヲ延ル  
先ヲ文字送りニ云

○芭蕉泡沫 セウハツ 右同

○士農工商 シノウコウカウ 下二ノヲ延ル

カウカウ  
孝行ももえつれ

下ヲ延ル心

花あよてよまよ

下ヲ延ル

翠帳紅圍

上ヲ延テ下ヲ短ク

カウロウ  
言樓より月川て

右月

行  
極め上人

上ヲ延ル心

トウカウハツ  
東光坊北阿園梨

中ヲ延ル

め云列音のまあるハ大緊スホム字ヲツケ用ク字ヲ伸  
但拍子な宛所のふー初乃不めは也拍子のふハ拍合  
の味ひを以て用合れ長短文字送りもかゝる家多し

一字隔ての日仮名甚耳よりく歌

更  
かみはたいまひ

芭  
まやくまへ

あ  
かくやく

江  
大いよみ塵ろくま

夕  
うらうらた

ゆ  
うすすす

源  
むらさね志きよ

井  
月七のやすぬき

一同假名きりり

ろ  
実なふもさうりた

芭  
何れ縁よりかく歌

从  
草刈おのこまは

柳  
病ふとありけつるさるハ

虫  
秋の羽乃

仏  
仏はあとししる拍子ハ

田  
ちいたのめ

竹  
ふく年久しきつるま

松 ちんこ。うら。 後 後佐助をそ。乃入て  
ま せしてハ。死。死。してハ

一 同他名あり事

タ みの。も。ま。し。も。ち。う。し。この  
教 玉ものまへと。し。し。人。れ。あ。う。ち。ん。れ。い。し。と  
井 たのむ。仏。乃。の。ま。え。し。と  
芭 云の葉くまの。い。は。り。れ。う。ち  
地 本林。本。の。る。乃。夕。行。く。よ。わ。け。子。乃。ち。家。本。れ。下。乃。  
くら本乃。も。存。れ。二。極。に。

アリ ちける本れ。花のうら。乃。乃。又。秋。れ。せ。み。の。吹。乃。声  
日 神の。思。乃。乃。い。し。へ。れ。神  
籠 ちんこ。乃。こ。ま。ま。う。う。み。さ。り。乃。こ。ま。も。あ。た。あ。し。ひ。形  
ら。は  
通 食才の。能。登。乃。乃  
年 くら。の。わ。り。し。き。や

一 惣一ててふをばの。後名をいひす。こ。ま。字。の。字。頭。へ  
子。く。な。付。故。文。字。子。双。ひ。徳。さ。う。う。く。ぬ。或。は。て。ふ。を。ば。の。  
後名。下。家。章。も。必。さ。が。う。べ。る。中。よ。い。ひ。は。ぐ。く



てにをえの仮名を麻未になさぬ心をせ及ふ字の字  
 字ハものづと控う候へ一志字ハ辨てふをハ用あり  
 てふをハハ助語まで志字をたす候あれを勿端音曲  
 よと此心を以て志字ハ陽てふをハ陰也陰陽和合  
 ちすハ調よま

一或徭の書ニ曰

を けうかのうつりハ控く  
 仁 けうかのうつりハま一ト也

是大に僻まはるがたとへ一歌書までハ控きを  
 まき仁と書まう候やたとえおけ補心を擲て幸  
 かゆりこ一唱よありて仮名を書かゆり事

あまとも仮名又依て唱へかゆり事 仁を忍の仮名  
 よはあた事なり且亦視ハ所の上ヶ下ヶ又依て  
 仁を七切く唱へ仁とからく徳ふるハ勿端拍  
 子よむくれと下かうつり又ひくれて也依上字依下  
 字とりありを知すハたにまよふ也

右用合音便を訓音もに五十字門忠  
 假名とくこのうけりゆ親疎を習練一  
 熟得して又入段にぬ事を避へ

古の奥山より新坂へまで居るのみは  
あう紀りみちれ多きを見まし一や  
中へよ又ちとちかくあまうり  
何まり海山乃おくと居るのみ



五冊

